

○ 浜松初の地域ブランド米「やら米(まい)か」を使用した新商品の開発

【背景】

浜松市は、みかんや野菜、茶など、多彩な農業が展開され、全国有数の農業地帯である。このうち水稻は、生産量、産出額とも県内最大だが、生産者の多くは零細で販売力が弱く、米産地としてあまり認知度されていない。そこで、消費者の価値観の変化を踏まえ、「地産地消」と「安全・安心」をキーワードとした「売れる米づくり」を進め、大消費地という立地条件を生かした都市型米産地の育成に取り組んだ。

【活動の概要】

- ・「西部稲作経営研究会」を中心とした大規模稲作農家に「売れる米づくり」を働きかけ、有機質資材を用いて化学肥料を削減し、それに伴う水稻の収量、品質、食味等への影響について実証を行い、特別栽培米の栽培基準を作成、技術確立を支援。
- ・中小企業診断士や社会保険労務士の協力を得て経営診断を行い、課題の抽出と将来計画を検討し、経営面を支援。
- ・地域ブランド化に向けて、マーケティング研修や消費者との交流会を企画・開催するとともに、農商工連携を積極的に進め、生産米を使用した新商品の開発を支援。

【活動の成果】

- ・浜松地域特別栽培米研究会が組織され、会員数と特別栽培米生産面積は年々拡大(19年度:9名、11ha→22年度:23名、45ha(見込))。
- ・特別栽培米を「やら米か」(「やらまいか」は「やってみよう」という意味の方言)と命名し、浜松商工会議所から全国に誇る地場産品として、浜松地域ブランド「やらまいか浜松」に認定。
- ・地元企業との連携によって「やら米か」を用いた商品が誕生し、販路も拡大。

